



Vol.18 1640 2015.11.18

会長挨拶

今日は日本のラグビーの話をしたと思います。私自身はラグビーにはあまり興味がありませんでしたが、ラグビーワールドカップの試合を見て好きになりました。

ラグビーワールドカップ2015のグループBの開幕戦で、Wカップで2回優勝したことのある南アフリカ代表に34-32で勝利し、「ワールドカップ史上最も衝撃的な結果」「スポーツ史上最大の番狂わせ」と報じられ、その後サモアとアメリカに勝利しました。

このことについて、約1ヶ月前のTBS系のサンデーモーニングの「風をよむ」のコーナーで「エディンヘッドコーチの苦言」と題し、ラグビー日本代表のエディン・ジョーンズヘッドコーチが残した発言をもとに、日本社会の特性についてまとめた番組を見ました。ジョーンズ氏は「ラグビーワールドカップ2015」から帰国後の記者会見で、チームの健闘を称える一方「規律を守らせ従順になるためだけの指導が行われている」と語り、こうした日本のラグビー文化が選手たちの能力発揮を阻んでいると指摘しておりました。

又、ジョーンズ氏取材した経験のあるスポーツライターの生島淳氏は、「集団主義」「目標に対して従順に勤勉に頑張っていく姿勢」が今までの日本ラグビーを支える価値だったとコメントしました。生島氏によると、ジョーンズ氏がそうした不合理な精神性を離れて「自分の判断・表現力を磨いていかないとダメだ」と選手たちを指導していたと発言しました。

ここから番組はラグビーの話題を離れ、日本社会一般についての問題提起へと移ります。不満があっても会社のために頑張り通すという日本人の精神性が、高度経済成長期の日本を支えてきたという主旨でした。ここで登場した一橋大学大学院の山岸俊男特任教授は、日本社会は上から与えられた規則に従うことでしか社会秩序を構築できなかったと語り、その「典型が(戦前の)軍隊」だと指摘。ジョーンズ氏の苦言は日本社会全体に通じるとし、これからは自分たちで創意工夫する生き方が必要であると訴えていました。番組のコメントーターの姜尚中(カンサンジュン)氏もこの見解に同意し、集団主義的な価値観が旧来の日本では上手くいっていたが、現代はあちこちで「モラルハザード」を起こしていると指摘。さらに安倍政権の掲げる「一億総活躍社会」とはその典型であり「無理がある」と批判し、「もうひとつの日本を目指す段階にきている」と訴えていました。

戦後70年となった日本ですが、そろそろ変わる必要があるのではないかと考えて仕方ありません。本日は若者代表の斉藤さんにお越し頂いており、今の若者観をお聞きしたいと考えております。本日は斉藤さんどうぞ宜しくお願いします。

以上で会長の挨拶としたいと思います。



幹事報告

※別紙幹事報告書

ニコニコBOX

人数
18人
金額
32,000円

◎矢崎敏臣会長

◎北原重信会員

◎北原享会員

◎田中淳喜会員

◎宮坂喜代治会員

◎田中淳喜会員

◎堀江藤夫会員

11月14日と15日、福島さんがつくった「アテマ高原リゾート」で十日町ロータリークラブと交流会を行ってきました。
新潟県十日町のホテル「ベルナティオ」(美しいふるさと)は最高でした。
娘の「愛」の大親友の「斉藤さん」です。たのしみです。
結婚記念日、花束をもって記念撮影しました。
RC財団・米山への寄付、お願いします。
結婚記念日、花束をもって記念撮影しました。
携帯電話で反則キップを切られました。大変反省です(累積6点)。講習を受けに行きます。
事故を起こさなかったことに感謝です。

卓話

マスダゲストハウス(下諏訪)

オーナー 斉藤希生子 様



茅野駅前の出身で、「斉藤鮮魚店」の娘さん、とのこと。
「ゲストハウス」は簡易宿泊施設のこと。素泊まりで、1泊3,000円位、シャワー・キッチン・トイレの共同共用スタイルの宿。他の宿泊者や地元の人と交流できるのが大きな特徴で、気軽に安く泊まれるので海外からのバックパッカーの利用が多い。もともと、東京とか沖縄とか観光客の多いところに沢山あったが、最近はブームになってきて、長野県には20件ほどある。諏訪には1件しかないが、松本には5件目できた。長野に4件、須坂、小谷村などにある。素泊りなので地域の施設を紹介することになり、街の活性化につながっている。

「マスダゲストハウス」は、元は明治からの温泉宿だが、下諏訪の温泉施設を利用してもらっている。近所の人も利用できる「バー」があり、地元の常連さんとの交流目的でのリピーターもいる。「個室」「ダブルベッド」「女性専用ルーム」「赤ちゃん連れ家族用量の部屋」もある。共同キッチンで自炊もできる。

去年の8月4日にオープンして、現在1年3ヶ月。海外から来てくれる人が多くて、来たら気に入って1泊の予定が4泊してくれた人もいます。下諏訪では去年8月から12月の外国人観光客が前年の6倍になったらしい。

「ゲストハウスをやろうと思った」のは、もともと海外をバックパッカーとして周ったときにこういう安宿を利用したのがキッカケ。「自分でそんな場所をつくれればいいんだな」と思い切って帰ってきたとのこと。

「なんで下諏訪なのか」というと、ホントは諏訪地域6市町村ならどこでも良かった。安宿に泊まる人はクルマを持ってない人が多いので、公共交通で移動することが多い。「下諏訪は、旅の拠点とする」と丁度いいのかな。と。日帰りで宿泊しない理由は、時間的・経済的余裕がないこと。「長野県への旅行目的は、温泉でのんびり過ごす、地元のおいしいものを食べる。その目的の多くが諏訪地域にはあるな」と。そこで、「今まで諏訪地域に無かった低価格で気軽に泊まれる宿があれば経済的な理由で泊まらなかった人が気軽に泊まることができるな」と。そこで、下諏訪で物件探しをしていたら、駅からの分かりやすい場所で、明治時代からの古い旅館があった。

「地域に暮らす人が楽しくて、訪れた人がまた来たいような、地域と旅行者を繋げる役割ができるような、そんな場所になるようなゲストハウスを目指している。」との抱負を語った。

11月14日と15日に、「アテマ高原リゾート」で十日町ロータリークラブと交流会を実施しました。

出席報告

会員数 57名
出席 43名
出席率 76%